

2025 年 5 月 1 日放送

漢方経方医学シリーズ④
気の流れ

広島大学病院　漢方医学センター　教授　　**小川　恵子**

経方理論では、気として「衛気」が重要というお話をしました。経方理論では、以下の 4 つに分類され、脈外の気のみが営血と併走します。

・後通の衛気（後背部の皮の部分を通る）
・前通の衛気（胸腹部の皮の部分を通る）
・脈外の（衛）気（血脈と平行して流れる）
・肌中の衛気（前部，後部の肌の部分を通る）

各々を説明していきましょう。

1. 後通の衛気

後通の衛気は、腎から上方向へ昇り、後膈から肺の宣散作用を受けて外に出ます。1 つは首の後ろを通って頭に行き，額を通って鼻下に行きます。この途中で衛気の一部は肩から手の陽経皮部つまり手の外側を通って手の甲に至ります。後膈から出たもう 1 つの衛気は背中、腰部の皮を通って足の後側と外側，経絡でいうと膀胱経・胆経・胃経の皮部を通って足背に至ります。よって、足背や手の甲が冷える、という患者さんは後通の衛気の経路に問題があります。

後通の衛気の還流路の 1 つは皮を通って胸に帰り、もう 1 つは肌を通って心下に帰り、そこから小腸~膀胱に行き、尿として排出されます。

2. 前通の衛気

前通の衛気は、2 つの経路に分かれます。1 つは胃から発して心下に行き、膈を貫いて胸・肺に行き、肺で宣散作用を受けて再び胸を通り、季肋部のあたりから上方に昇って胸の皮を

通り顎・頬部に行き、途中で肩から手の内側を通って手掌に行きます。もう１つは胃から腹部の皮を通り、前膈から足の陰経皮部を通り足底に行きます。よって、足底もしくは手掌が冷えるという患者さんは前通の衛気の経路に問題があります。還流は後通の衛気と同じです。

3．脈外の気

機能的な腑としての胃において飲食物より産生された胃気は心下・膈・胸を通って肺に行きます。肺において大気より取り込まれた気は胃気と混合されて肺の宣散作用により心包と心へ送られます。肺からの気津は心において腎の気化作用により赤い血となり脈中を流れて全身をめぐります。血は心から経脈を通って絡へと分配され、再び経脈に集められ、肝へと蔵血される部分を除いて再び心へ戻り再び循環過程に入ります。

この脈中における血の循環過程で肺から心包に送られた気は脈外の気となり脈の外側を脈中の血（営血）と併走します。脈外の気は併走する過程で消費され、絡脈から経脈へと戻る過程(静脈系)では大幅に減少しています。また心包は、肺を経由した胃気の供給を受け脈外の気を推進します。心包には胸からも気が供給されますが、これは心包への気の供給であり脈外の気とはなりませんので、脈外の気は肺からの胃気が供給されます。

脈中を血が流れるのは、主に心の作用によっています（「心主脈」「心主血」）。また 「温かく流れる」ためには、 狭義の血中の気も重要です。血の流れは、さらに脈外の気によりサポートされています。

4．肌中の衛気

前通の気と同じように、胃から出て**心下→前膈**を通り、肌に出て行きます。皮気のように膈から胸に昇って肺に行き、肺の宣散を受けることはありません。例えば、熱いうどんに唐辛子をかけて食べると上半身に汗をいっぱいかきます。これは気が**胃→心下→前膈**と動いて、肌に出るからです。気は上方に昇りやすい性質があるので、上半身の肌に熱い気が昇ってきて、汗として外へ出るのです。こういうときは特に前胸部・上背・額・顔にいっぱい汗をかきます。

５．胃気の頭頸部への直達路

もう１つの経路、頭部・顔面への胃気の直達路について説明します。例えば、食事の際には唾液が口中に分泌されますし、熱いラーメンを食べると多くの人が鼻汁が出ます。これは心下に蓄えられた胃の気津がこの直達路によって口中や顔面に供給されたものであると考えられます。頭頸部はこの**胃→心下→頭面**という直達路によって、特殊なサポートを受けていると考えています。病理としては、心下の飲がこの直達路を上ったり、胃熱がこの直達路を通って頭面部の症状を引き起こしたりすることがあります。

例えば桂枝湯証の「上衝」、麻黄湯証の「衄」つまり鼻血や、沢瀉湯証の「冒眩」などはこの直達路を介した症状と考えられます。

また、胃の気津は、腠理が閉じ、心下の昇降出入が失調している状態では、胃から腎へ行く経路しか残されていないため、胃気が腎に過剰に流れるのですが腠理が閉じているために腎から後通の衛気として発汗・発表できません。すると、腎に流れ込んだ胃気は心へと上衝し、条文中では「少腹から心」と記載されています。

6. 外殻の衛気

皮・肌・腠理で構成される外殻における気の循環についてさらに説明します。

衛気は、皮・肌・腠理を温めながら循環します。まず、一番外側の衛気である皮気は、皮の部分を肌と平行して走っています。皮の下にある肌の部分では肌気と津液が流れています。皮気や肌気は必要に応じて腠理から汗として外に出ます。衛気は循環過程で消耗し、先端まで行き、残った衛気は還流します。

衛気の還流路は 皮と肌の 2 通りで、皮から還流する気は胸に、肌を走る気は心下に戻ります。この還流路が邪の内陥する経路となっているので、皮の還流路・ 肌の還流路の構造が邪の伝変を考える際に重要です。例えば、寒邪は、外から侵入して皮に外束し、皮の還流路を通って胸に内陥します。風邪は、腠理が開いている場合は皮腠を通り抜けて肌に入りそこから心下に至り内陥します。

7. 症例を提示します。

20 代の女性です。主訴は嘔気、眩暈、動悸です。就職後、主訴が出現、現在は休職しています。パニック障害と診断され、セルトラリンを処方されたが、コントロール不良で、嘔気が増悪しました。また、薬剤の長期内服を望まれず、漢方治療を希望されました。

自覚症状は、動悸、胸が苦しい、体が重い、手足が冷える、不安、恐怖を感じる、入眠後 1～2 時間毎に覚醒する不眠でした。脈候は、寸関尺の順で、右はやや浮やや弦やや軟按じて細渋　やや弦按じて渋、やや沈弦按じて細渋、左はやや浮弦按じて細渋、やや浮弦按じて渋、やや弦按じて細渋で、寸のほうが尺よりも浮いていました。舌候は淡白舌、腫大、歯痕、白苔を被っていました。腹候は、腹力は軟で、両側腹直筋緊張、著明な心下悸・臍上悸を認めました。

パニック発作が酷く、煎じで桂枝甘草湯を処方したところ、翌日には、発作消失。再診時、脈のバランスもよくなりました。

桂枝甘草湯は「發汗過多. 其人叉手自冒心. 心下悸欲得按者. 桂枝甘草湯主之.」とあり、発汗過多などによる脈外の気の消耗により、特に心包への脈外の気の不足、胸への気の供給不足により胸苦しさが生じ、心下の昇降不利も生じ、胃気が腎に多く行き、心下への腎気の上衝によって心下悸が生じます。このような病態に対して、甘草で胃気を生じ、桂皮が胃気

を心包に運びます。桂皮は胸・膈・心下の昇降不利も改善するので、速やかに症状が回復したのです。桂枝甘草湯は苓桂朮甘湯、苓桂甘棗湯、苓桂味甘湯のベースとなる処方です。

8. まとめ

まとめです。衛気には、「後背部の皮の部分を通る後通の衛気」、「胸腹部の皮の部分を通る前通の衛気」、「血脈と平行して流れる脈外の衛気」、「前部，後部の肌の部分を通る肌中の衛気」の 4 つがあります。

これらの経路とは別に、胃気の直達路と、腎から、心下、心・心包などへ上衝する経路があります。